

古墳の災難

今からおよそ1500年ほど前、岸和田市内には多くの古墳が築造されました。市内で最大の古墳は摩湯町にある摩湯山古墳です。全国の古墳時代前期に築造された古墳の中でも上位に入るほどの大きさの古墳です。

今、この摩湯山古墳の周辺は住宅や田んぼが広がっています。しかしその周辺には小規模ながら多くの古墳が築かれていたことが周辺の発掘調査で分かってきました。でも、そうはいつでも周辺に古墳らしき高まりは見あたりませんよね。それは、すべて平安時代以降に削平され、耕地化されてしまったからです。ですから今は見た目ではわかりません。

同様のことは全国でおこりました。奈良の都、平城宮の造営に際し、大きな前方後円墳が破壊され、その跡に宮殿が造営されたという事実が発掘調査で確認されています。いや、他の地域でもさらに遡って、すでに古墳時代に古墳が破壊されたという事実が発掘調査で確認されたりしています。これには様々な政治的意図や力関係が働いたのでしょう。

そして、以降、古墳に対する様々な破壊が行われてきました。古墳とは特定個人のお墓ですが、実に大きいものです。後世の土地利用に際し非常に邪魔な場合が多く、また宝物をねらう盗掘も相次ぎました。ですから平安時代以降の耕地化、中世後期の城砦化（小高い丘と堀は砦や陣地に最高！）そして盗掘、近代の開発、都市化、道路建設などで多くの古墳が破壊されました。つまり今地上に残る古墳というものは、数々の破壊の危機を乗り越え伝えられた、本当に貴重な古代遺産というべきもののなのです。



↑ なぎ倒されたはにわ

でも…これは古代から最近までの例です。実は今も古墳は破壊されているのです。それも開発に伴うものではなく、上にあげた破壊例のどれにも当てはまらない新しい破壊です。写真は岸和田市内の久米田古墳群にある無名塚という古墳のようすです。この古墳は古墳公園化に伴い発掘調査され、きれいに整備されていました。でも整備されていたはずの古墳の墳頂部や周辺に並べてある埴輪の復元品が次々と壊されてゆくのです。

この破壊は、生活のための耕地化でもなし盗掘でもない、戦いのための城砦化でもな



↑ 燃やされたはにわ

い、おそらくただの「面白半分のいたずら」というのが理由でしょう。ゴミ箱代わりにしたり、叩き割ったり、引き抜いたり、挙げ句の果てには火をつけて燃やしたり……FRPで復元してありますから火を着けると燃えるんです。こうなるともう犯罪ですね。

千数百年の時を耐え、きれいに復元されていた古墳。どうして壊されるのでしょうかねえ。あれはお墓なんですよ。面白半分で壊すモノではないですよ。

破壊した人が岸和田の市民とは限りません。でもそのたたき壊された埴輪は、岸和田という地域のモラルの低さを象徴してしまいかねませんよね。この新しい古墳破壊、どう思われますか？

山岡邦章 郷土文化室

淡水魚（メダカ）の飼い方

淡水魚は日本に約 300 種近くいます。しかし、そのすべてがそこら中で採集できるわけではありません。川をのぞいて「あっ魚がいる！！」と思った時の魚は、たいていオイカワやコイ、フナでしょう。この連中は汚染に強く、オイカワなどは汚水菌を食べて生きていくことができるほどです。ですから、魚がいるからといってすべてがきれいな川だと思ったら大間違いなのです。

さて、こうした淡水魚のうち、学校での飼育に適した魚となると、やはり“メダカ”でしょう。もう既に飼われているかもしれませんが、水槽とろ過装置さえあれば実に飼いやすい魚です（図 1）。

水槽の大きさやろ過装置の種類はどのようなものでもかまいませんが、できれば上面式のものより、静かに水が流れるスポンジ・フィルタータイプを選んだ方がよいでしょう。メダカは止水域の魚で、激しい水流は苦手なため、上から水をドボドボ落とすのはあまりよくないからです。どんな生き物でも、飼う時は必ずその生態をよく調べ、生息場所の環境にできる限り近づけることが大切です。

水槽には必ず砂利を入れてください。砂利の大きさは与える餌の大きさにより決めるとよいでしょう。メダカの餌は非常に細かいものになりますから、砂利はそれほど大きなものでなくてもかまいません。砂利は水槽の底から 2～3cm ぐらいを目安に敷いてください。この砂利の隙間にもバクテリアがすみつき、食べ残しの餌やメダカの糞をある程度分解してくれます。

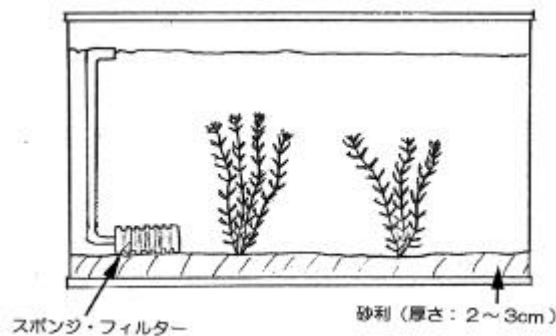


図1 水槽とろ過装置

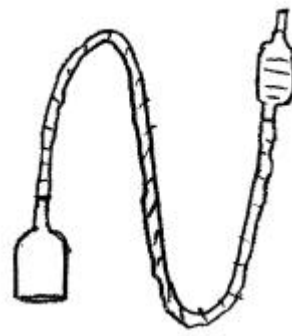


図2 ポンプ

水替えは基本的に週2,3回は行ない、全体の1/5~1/4程度を少しずつ替えますが、一度に半分以上は替えないようにしてください。近年、メダカは減少しているのですが、水の汚染に弱いように思われがちですが、実際は汚濁や塩分には強い魚なのです。水替えの際は、砂利の中のゴミも一緒にとってやります。先の幅の広いポンプをうまく使えば、砂利を吸わずにゴミだけとり除くことができます(図2)。新しく水槽をセットする場合、ろ過装置にバクテリアがすみついて水槽内が安定するまで1ヶ月ぐらいかかります。それまではアンモニアがたまるので、その間は必ず水換えを行ってください。

なお、飼育時にはタニシ・カワニナ・モノアラガイなどの巻貝類を必ず入れるようにしてください。これらの貝は残った餌を食べてくれますし、モノアラガイはその糞の効果で水槽が緑色になるのを抑えてくれます。残った餌を食べてくれる生き物として、スジエビ・ヌマエビなどのエビ類がよく使われますが、これらのエビは餌が不足するとメダカを襲ったり、卵を食べたりするので避けた方が良いでしょう。

最後に、産卵のさせ方ですが、メダカの産卵期は春~夏(4~7月)にかけてなので、春先に2cm以上の魚のみを雄:雌=3:1の割合で隔離するとよいでしょう。雄と雌の見分け方は、図3を参考にしてください。魚の密度があまり高いと産卵しにくくなるので、入れるメダカの数には60cm水槽なら20匹程度にとどめましょう。産卵させるときに大切なのは日照時間と水温です。日照時間は14時間以上とし、水温は25~28℃の状態に常に保たなければなりません。これを守ることによって、冬でも産卵したという例もあるようです。また、水草を忘れてはいけません。メダカは産卵後しばらく腹に卵をつけ、水草などにくっつけてまわりますのでマツモ(キンギョモ)を必ず水槽に入れてください。マツモは根を出さないで、手で砂利の中に植えるようにしましょう。メダカの寿命は自然下で約1年ですが、飼育下では2年、まれに5年生きるものもいます。

以上がもっともポピュラーなメダカの飼育法ですが、モツゴ・タナゴ類・ドジョウ類など、

ほかにも飼うことができる淡水魚は数多くあります。淡水魚を飼育する上での質問などがありましたら、私がいることが多い木曜と日曜に自然資料館までお寄せください。

皿池伸夫

自然資料館アドバイザー

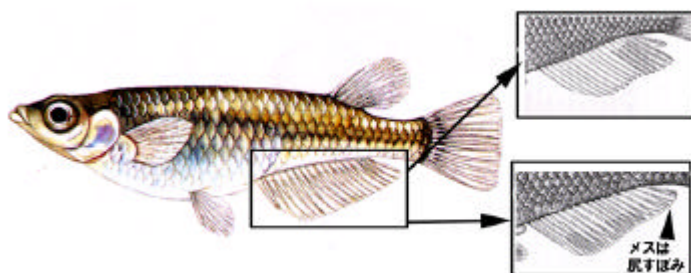


図3 メダカと雄と雌のちがい

○ ● INFORMATION ● ○

郷土資料館企画展

写真でみる岸和田市の80年

市制施行80周年にあたり、大正時代から昭和40年代までの岸和田市内各地の風景写真パネルなどを通じて、岸和田市の歩みを振り返ります。

期 間 平成14年11月28日(木)
～平成15年3月16日(日)
場 所 岸和田城天守閣1階展示室
時 間 10時～17時(入場は16時まで)
入場料 大人200円 小中学生100円
25名以上団体3割引
休館日 月曜日(12/23、1/13は
開館します)、12/29～1/5
交 通 南海蛸地蔵駅下車徒歩7分
お問い合わせは、岸和田市立郷土資料館(TEL:
0724-31-3251)まで

♪♪昔のこんな風景写真を展示しています♪♪

■大正12年、蛸地蔵駅の近くで開かれた市制施行記念博覧会のゲート

■昭和3年と昭和23年の岸和田駅前

■昭和17年頃の岸和田市役所、山直町役場、南掃守村役場

■昭和29年、再建工事中の岸和田城天守閣

■昭和48年、春木競馬の最後のレース

自然資料館のイベント情報

自然資料館特別展「海と魚と大阪湾」

大阪湾は昔から、沿岸に住む人々の食料供給に大きく関わっていました。現在は、汚染が進んでいます、いろいろな海洋生物が生息する貴重な環境です。

今回は、大阪府民にとって、もっとも身近な海である大阪湾に生息する生物、大阪湾の漁業の変遷や、これからの大阪湾と人とののかかわりについて、標本や漁具で紹介します。なお、本展は、日本財団助成事業(海と船の企画展助成事業)として開催するものです。

主 催 (財)日本海事広報協会・(社)近畿海事広報協会・きしわだ自然資料館
協 力 大阪府立水産試験場・岸和田漁業協同組合・岸和田市立浜小学校
期 間 平成15年2月1日～3月30日・祝日を
除く月曜・2月12日・28日休館
場 所 きしわだ自然資料館1階ホール
時 間 午前10時～午後5時(入館は午後4時
まで)
入館料 一般400円・小中学生200円・常設展示
含む(学習券も使用できます)

♪♪おもな展示資料♪♪

■大阪湾で漁獲される魚類

■大阪湾から発見される化石

■古代から現代までの漁具や漁法の紹介など

お問い合わせは、きしわだ自然資料館(岸和田市堺町6-5;TEL:0724-23-8100)まで

年末年始の休館日

郷土資料館、自然資料館ともに、平成14年12月29日～平成15年1月5日(6日についても月曜日のため休館)です。

お願い [fromM] は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>

Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)